

本願力

横浜別院だより



【 東京教区報恩講 団体参拝 】

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一丁目十一番

FAXTEL (045) 841-3434
(045) 841-3428
<http://www.yokohama-ootani.com>

雑感 三

輪番 坂田 智亮

先日、念願であった東松山市にある

原爆の凶丸木美術館へ出かけた。都幾川の辺に建てられた佇まいに原爆の凶十四枚を始め、沖繩・水俣、遠く南京、アウシュビッツを題材にした絵画は、どの描写も違わず強烈なインパクトをもって自分の中に入り込み、これまでの人生経験によって培ってきた自己の想像力を粉碎する迫力にただ呆然として立ち止まり歩み出せなかった。テーマに共通するのは、いつの時代も人間社会の底辺に、為政者や強者の身勝手な欲望と詭弁、暴力、権力が浸潤して、弱者と呼ばれる名もなきかわい民衆を犠牲にしていること。このことは自然発生的な災害等でなく間違いない人為的な歴史の産物である。平和と幸福を求めているはずの人間の営みがこのような惨状、地獄を生み出しているのがよく理解できる。その矛盾と不条理が独特な洞察力と緻密な表現力によって描き出されている。「原爆についてほれだけひどく描いても描きつくせないと思う」（丸木位里）そして他者

の痛みに近い、我がこととして捉えると云う基本的姿勢を窺い知ることができる。なぜこのような歴史的現実が惹起するのであるのか。いや、今も現に同じ時間が過ぎていくのかもしれない。この絵画の表現にどれだけ自己自身を肉薄できるのかが問われている。どんな時代に生れようとも、差別と殺戮は止むことがなく、常に人は三悪道に墮して、のがれがたき身であることを、正確に認知することができよう。気がしてきたのは不思議なことであった。

ひとそれぞれの 涙のしずくに洗われて

咲き出づるなり

(石牟礼道子)

お念仏は平常心だと、また、お念仏は常識だと教えてくださった先達の言葉に想いを馳せるとき、人間とは「他者の痛みを知ってこそ」そんな共感の場を共に生きているのだという感覚が不可欠のように思えてくる。最近、世の中の動向を見聞するにつけても「自国第一主義」と他を排除する風潮が広がっていることは理解できず釈然としない。ささやかな運命を共に生きている者として、人間として持つべき心「共感の場」を回復して、そこに帰していくのが本願念仏の道でありましょう

神奈川教化センターはやがて発足三年を迎える。「別院に願われていることを形にする歩み」は、どこまで進んだのであろうか。時代社会に問われてくる課題に忘れるべく試行錯誤の連続である。「元氣の出る寺づくり講座」「グリーンフケア」「公開講演会」さあ、これからの展開はいかに・・・振り返ってみても道が茫々としている。「これだからこれまでを決める」この言葉は実に重たくのしかかっている。

劫濁のときうつるには 有情ようやく身少なり
五濁悪邪まさるゆえ 毒蛇悪龍のごとくなり
(正像末和讃)

修正会 厳修（二月一日）

今年より当別院の修正会が勤まりました。修正会とは、一年の初めに荘厳を整え、仏恩報謝の思いをもつて新しい年にのぞむ仏事です。勤行と年頭の挨拶の後、研修室でお齋をいただきました。食事は門徒皆さんが黒豆などの手作りのおせち料理を持ち寄っていただきました。お屠蘇をいただき新年を彩る雰囲気になりました。



教区報恩講団体（二月二十八日）

毎年、別院同朋の会を中心に東京教区報恩講に団体参拝しています。今年には十名の方に参加いただきました。今年度テーマは「今、いのちがあなたを生きている・凡夫の身に立ち返る。」でした。午前は、中根信雄氏の法話、TOKYOサンガリによる仏教讃歌の合唱があり、その後お齋をいただきました。午後は、結願日中法要が勤まり、大きな声で正信偈真四句目下、念仏讃五洵が真宗会館全体に響きわたりました。その後、感話があり、ユ・ヨンジャさんの法話がありました。沖繩を手がかりとして真宗の教えを聞いていく場となりました。

二〇一八年度第四回 別院声明儀式研修会（二月二十一日）

今年度四回目となる声明儀式研修会が開催されました。講師は鈴木友好師（本山・堂衆）で、講題は昨年に続き「報恩講の儀式全般について」でした。午前は報恩講についての講義。配布資料に基づき、法要次第、荘厳、華束、御仏供、選り御文等の話を詳しく頂きました。

午後からは、本堂において、実践形式の出退作法等の確認を行ないました。

（文責家本）



→ 講義の様子 本堂での作法の様子 →

【別院参拝がありました】

横浜別院では、全国各地から団体参拝をお受けしています。二月一日には「岡崎教区第五組ご一行様」にお参りいただきました。横浜にお立ち寄りの際は、どうぞお気軽にご参拝ください！

加納靖夫責任役員 ご逝去

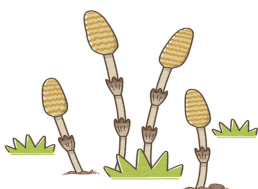
この度、当別院 責任役員 加納靖夫氏は、病氣療養中のところ、去る一月二十七日ご命終（七十七才）されました。

加納氏は二〇〇五年五月より別院監事二〇一一年より現在まで責任役員の重責を担ってくださいました。その間、二〇一五年四月の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要、記念事業、神奈川教化センター開所など幾多の事業にご尽力いただき、また、親鸞聖人の銅像を寄進されました。別院同朋会では、先頭に立って積極的に聞法、奉仕活動等に励んでこられました。

二月十七日「責任役員加納靖夫を偲ぶ会」が別院本堂にて開催され、遺族を始め有縁の方々四十名程が集い、それぞれ加納氏との出遇いに想いを馳せて、厳かに正信偈のお勤めをしました。輪番の挨拶・追弔の言葉、清水妙子さんの弔辞があり、引き続き加納氏のお兄様からお言葉を頂き、参加者一同生前の遺徳を偲び、最後の大切なお別れをしました。



【加納靖夫責任役員】



合掌

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

三浦組 二〇一九年度寺子屋
講師 片山寛隆師（三重教区相願寺住職）

三浦組では毎年「寺子屋」という門徒研修会を開催しています。二月五日、今年度第一回目が横須賀市の最光寺で開催されました。参加者は本堂いっぱい五十名を越えていました。

講師は、片山寛隆師で、テーマは「念仏のある生活へ教えに出よう」とでした。片山先生は、まずご本尊のお話を始められました。「仏さまのことを知ってるつもり、聞いているつもりでいることを、仏さまから問われているのである。」と教えていただきました。仏さまとは「苦悩する群萌を救う」のであり、草木が萌えるように人間も萌えていることも教えていただきました。また、「仏さんの仕事に土日はない」と休みなくはたらいておられる阿弥陀仏の姿を言い表してくださいました。最後に、「宗教とは自分の夢を叶えてくれるものではない。夢は夢である。夢から覚めよ」と呼びかけていただきました。

次回の第2回、

第3回と寺子屋は続きます。

（文責家本）



→ 片山寛隆 先生

横浜組 門徒研修会（二月十五日）
講師 一楽 真 師（大谷大学教授）

横浜組門徒研修会の今年の講題は「真宗の救い、あなたは本当に救われたいと思っ
ていますか？」でした。講師の一楽真師は、「
「仏教は苦しみからの救いであり、解脱である」と始めにお話されました。「
「仏教の教えが先にあるように思うが、実は仏教は人間の苦しみから始まっているのである。
様々な周りとの関係で苦しみが生まれ、つ
ながりの中で苦しんでいるのが我々である。
科学技術や医療が進歩しても、この苦しみの問題は消えない。」とおっしゃられました。
一楽先生は、安田理深先生の言葉を引用され、「
「仏教は水を飲むようなもの」とお話されました。例えば、喉が渴いていな
いと、水を飲まない。逆に喉がカラカラだと水を飲んで、「
「生き返った」と思うはずである。それに、コップに入った水を手に持っ
て眺めて、あれこれと考察する人もいる。的
を射た例えで、頷かされました。やはり、水を飲むことから始まる
わけで、真宗の教えは念仏申すことから始まるわけである。」

（文責家本）



→ 一楽真 先生

「神奈川四ヶ組行事予定表」

《横浜組》
【横浜組門徒研修会】

【日時】 四月十一日（木）午後一時半～
【講師】 武田定光 師（東京六組因速寺住職）
【会場】 本願寺横浜別院

【横浜組声明儀式研修会】

【日時】 五月二十日（月）午後一時半～
【講師】 管生考純 師（京都教区光明寺住職）
【会場】 本願寺横浜別院

《三浦組》
【二〇一九年寺子屋】

【第二回】
【日時】 三月一日（金）午後一時～
【講師】 伊東恵深 師
（三重教区西弘寺住職）

【会場】 西來寺（横須賀市不入斗町三三八）

【第三回】
【日時】 四月九日（火）午後一時～
【講師】 荒山信 師
（名古屋教区恵林寺住職）

【会場】 圓照寺（三浦市三崎四一十九）

（文責家本）

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2019年3月～4月

～どなたもご自由にお参りください～

春季彼岸会法要 午後1時30分より

3月20日（水）・21日（木・祝）

【法話】近藤 龍麿 師

（岐阜教区第11組廣専寺住職）

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、自分の生活を振り返る大切な時です。

有縁の皆様におかれましては、ぜひご参詣ください。

**公開講演会**

・小さき声のカノン上映&監督トーク
鎌仲ひとみ監督来たる!

3月10日（日）

午後1時30分～5時（受付1時より）

【上映】『小さき声のカノン-選択する人々』
＜内容＞福島原発事故から7年、日本でも被ばくを軽減する新しいステージが始まった。放射能についての危機感がしだいに薄れ、事故の風化がささやかれる今だからこそ、誰もが観るべきドキュメンタリー映画。

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター

【参加費】大人1,000円、高校生以下500円

上映後、鎌仲ひとみ監督のトークを行います

※当日受付となります。直接会場へ。

定例法話 午後1時30分より

3月9日（土）横浜組 智廣寺 橋本 正博 師

3月28日（木）別院 輪 番 坂田 智亮 師

4月9日（火）湘南組 長徳寺 内藤 祥世 師

4月28日（日）別院 輪 番 坂田 智亮 師

横浜別院同朋の会

4月18日（木）午後1時30分より

参加者の皆様とテーマを決めて、座談を中心に行います。お気軽にご参加下さい。

※3月18日の同朋の会は休みです。

ウクライナの歌姫

ナターシャ・グジーコンサート
【水晶の歌声とバンドゥーラの可憐な響き】

4月14日（日）

午後5時～6時（受付4時30分より）

【メッセージ】私の人生にはいつも音楽がありました。つらいとき、悲しいときも音楽が私を元気づけてくれました。そこに希望と、明日へ向かう勇気が生まれ、私は一日一日と人生を重ねてきました。そしていつも、聴く人のところに響く歌と演奏をお届けできてきたらと願っています。

【会場】本願寺横浜別院・神奈川教化センター

【参加費】大人1,500円、小学生以下無料

※当日受付となります。直接会場へGO!

紙面でお伝えしました
とおり、加納靖夫さんが
亡くなられました。私が
別院に着任しました。二〇
〇五年に加納さんのお母
様が亡くなられ、それを
ご縁として大変親しくお
付き合ひさせて頂いた
屈抜きに悲しいのですね。
さて、春の訪れがま
なくやってきます。なん
となくですが、例年より
は寒さがきびしくなっ
たように思います。

四月から新年度を向か
え、様々な行事を計画し
ておりますので、まずは
お寺に足をお運びくださ
い。特に用事がなくても、
ふらっとおいでいただき、
本堂でお参りいただけれ
ばと思います。なかなか
一朝一夕にはいきません
が、何か動きとして始め
ていきたいです。

（家本）



編集後記